

●○○ 第144回あすか倶楽部 定例会 ●○○

テーマ：食品メーカーと環境政策

講師：食品メーカー 品質保証部 環境品質マネジメント課 松原 一成氏

日時：2012年7月21日（土）14:00～17:00

場所：トヨタ自動車（株）池袋アムラックスビル6階604会議室

■企業を取り巻く社会の変化

*地球環境・社会問題の深刻化

1950年代 高度経済成長→工業地帯での原因不明の病気発生

↓

1960年代後半 四大公害（水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病、第二水俣病）
工業活動と健康被害の因果関係が科学的に証明される。

↓

政府の公害対策への介入が始まる。

1967年 公害対策基本法、1970年公害国会開催

転機1989年 原油タンカー座礁事故

1, 100万トンの原油がアラスカ州南部の湾に流出し、被害者は人間ではなく生物や海であったにもかかわらず、エクソン社は約20億ドルの損害賠償請求を受ける。

・ポイント

環境リスク＝経営リスク

環境マネジメント＝法令順守から、環境マネジメント＝経営マネジメントへ

1992年 地球サミットで地球環境問題が話し合われ、「人類の行動が地球環境にダメージを与えていることを認識」

「被害者は人ではなく地球や未来の人類」であること。

「環境への配慮は当然の義務→法律の強化、各種政策の充実」を確認。

↓

近年、社会責任としての環境対応

・2011年4月 改正法施行（大気汚染防止法、水質汚濁防止法 強化）

内容：測定結果の改ざん等に対する罰則の創設

・企業に求める社会からの要求の変化（社会的責任を果たすことの要求）

↓

グローバルに活動する企業が主体となり取り組むことが世界中から求められる時代になった。

*食品メーカーに求められるもの

1. 国内 ゴミ問題、食資源ロス問題、エネルギー問題、公害問題

2. 世界 地球温暖化問題、生物多様性の減少、オゾン層破壊

3. 消費者 環境へ配慮しながら安い商品の提供

上記の課題に取り組みながら、環境の未来に配慮した企業経営が求められる時代になっている。

■マルハニチログループの環境配慮

* 「環境理念」

「私たちマルハニチログループは、食品という地球の豊かな自然の恵みを受けて事業を営んでいます。このかけがえのない地球の環境を守り、自然の生産力を維持し、次の世代に引き継いでいくことが、私たちの責務です。」

* 「環境方針」

1. 社会との共生を図り、地球自然環境の保全に努める。
2. 環境に配慮した開発、調達、生産、流通を積極的に推進する。
3. 省エネルギー、省資源等に努め、温暖化ガスを削減するとともに、産業廃棄物の削減、再利用等を行う。
4. 環境情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションに努める。
5. 環境関連の法規制を遵守する。
6. 環境教育及びグループ内広報活動を通じて、従業員の環境保全意識の向上を図る。
7. 環境マネジメントシステムを構築し継続的改善を図る。

* 「環境活動の考え方」

環境 (e c o) + 付加 (a d d i t i o n) = エコアクション

「環境改善活動は費用をかければできる！！しかし、そのために商品が高くなって良いはずがない。やるからには、事業の改善に繋がる活動を」

* 「設計・開発」「製造」「流通」の各段階での環境法令対応

1. 「設計・開発」段階での環境配慮

①容器リサイクル法への対応

法律では2パターンの履行方法が認められている

- ・自ら回収しリサイクルする（リサイクル業者に引き渡す）
- ・対象となる容器包装を計算し、「指定法人」（日本容器包装リサイクル協会）に再商品化してもらう。

↓

使用するトレー資材の軽量化により指定法人への納付金やゴミの軽減

②カーボンフットプリント制度

原材料の調達内容が変わることがあり、計算が複雑で誤表示の危険性がある。（現状対応は困難）

2. 「製造」段階での環境配慮

①水質汚濁防止法への対応（事業所から河川及び公共水域への排水を規制）

- ・化学反応を利用する方法（多額の薬品代と汚泥の処理費用がバカにならない）
- ・微生物を利用する方法
- ・嫌気性細菌を利用する方法

②食品リサイクル法への対応（日本では年間2兆円かけて食品廃棄物を処理している。）

- ・抑制・・・重要！コストをかけずに対応するために、加工段階での発生を抑える
- ・再生利用
- ・熱回収
- ・減量

3. 「流通」段階での環境配慮

①省エネ法（特定荷主）荷主に対して商品輸送の効率化を求めた法律

義務内容・・・商品の輸送段階で消費するエネルギーを「年間1%」削減

- ・トラックより船
- ・荷揚げ港の細分化
- ・トラックの積載率向上と共同配送

②オゾン層保護法への対応

フロン国内全廃を決定。2020年までにフロンは使用できなくなる。

- ・代替フロン使用設備への転換
- ・自然冷媒を使用した設備への転換（人材育成も重要な課題）

↓

マルハニチロとしては「自然冷媒」を推進

■所感

食品企業として、環境問題に取り組む姿勢をグローバルな視点から講義して頂いた。

自社だけではなく、業界全体が環境問題に積極的に取り組み、消費者や社会の支持や理解を得ないことには、未来は無い、ということが感じられた。また、企業としても環境問題に積極的に取り組み、社会的責任を果たしていくことにより、従業員がそれを「誇り」と感じる事が重要であることもわかった。

消費生活アドバイザーとして、企業や社会の中での重要な活動の一つとして、環境問題への取り組みを提言していく必要性が認識できる講義でした。

以上

報告者 32期 公文 剛